

30万人署名を厚生労働大臣に提出

日時:2005年4月21日 15時40分

【J-LAMの会】代表 池田 靖宏 他6名



署名用紙入りの箱を積んだ台車の前で
(池田代表・厚生労働省 ロビー)

4月21日、J-LAMの会は「呼吸不全によるLAMの研究継続」と「治療の公費負担化」を求める30万人分の署名を尾辻秀久厚生労働大臣に提出しました。

午後3時40分に始まった尾辻大臣との面会は、記者やカメラマンが見守る中、池田代表が署名の入った段ボール箱を渡すところから始まりました。

池田代表が研究継続について触れると、大臣からは「LAMの研究については、当面の継続は決定しています」との回答が得られました。

続けて、慌ただしいエレベーターの移動や人混みなどに圧倒され、息切れとめまいを起こしながらも患者が、途切れ途切れに「診断基準のガイドラインの制定や、特定疾患懇談会の審議を待っている時間はありません。私たちの病気は進行する一方です。」と治療費の早期公費負担化を訴えました。LAMと同じく肺移植対象となっている他の疾患の患者との待遇格差も指摘しましたが、大臣からは即答を得られませんでした。

そして、忙しい診察の合間を縫って、日本呼吸器疾患患者団体連合会の日本呼吸器学会側代表の福地義之助教授の代理として出席した瀬山邦明先生が、「間違いなく、今年度中にガイドラインに関してはまとまる」と発言。また、医療機関と患者の協力体制がしっかりできていると述べ、研究の必要性や、医療費の補助が得られれば患者が病院を受診しやすくなり移植医療への展開についても展望を望めるなど、様々な問題点について言及しました。瀬山先生は順天堂大学医学部順天堂医院で診察をしており、J-LAMの会の医療アドバイザーでもあります。

続いて、副代表が発言を始めましたが、この日に出席できなかった患者などに思いを馳せ、「私は、今日ここに命がけで来ました」と言ったまま涙ぐみ、言葉に詰る場面もありました。

署名活動は、予想を上回る294,256名分、段ボール箱18個分もありました。街頭に立って下さった方もいたとの報告も届いています。署名集めにご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました！

尾辻大臣と池田代表
(厚生労働省、大臣室)

